

病虫害発生予察指導情報（追加情報）

（ナシ・黒星病 No.3）

令和2年6月24日

鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

6月中旬現在、ナシ黒星病の発生量が例年に比べて多い園が認められています。特に‘新甘泉’や‘幸水’では、6月以降の感染により収穫果被害が助長されるため、防除対策を徹底する必要があります。

2. 情報の根拠

- (1) 6月中～下旬に実施した県内13地点の巡回調査の結果、平均発病果率は平年に比べて高かった。
- (2) 6月以降、‘新甘泉’の果実感受性は次第に高まり7月上旬にピークとなる。‘幸水’のそれは7月上～中旬にピークとなる。
- (3) これまでの発生状況及び向こう1か月の気象予報（6月18日発表）から、やや多い発生量が予想される。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や果そう（図1）は伝染源となる。定期的に園内を見廻り、発病部位を見つけ次第切除して園外処分する。
- (2) 赤ナシの有袋栽培では、袋掛け直前に必ず薬剤散布を行って速やかに袋掛けを行う。未だ袋掛けを実施している園では、早めに袋掛けを終える。
- (3) 現在発生量が多い園では、防除効果の高いDMI剤（アンビルフロアブル1, 500倍液、スコア顆粒水和剤4, 000倍液など）を追加散布する。DMI剤耐性菌の発達を避けるため、これらの剤の散布時には保護殺菌剤（ベルコートフロアブル1, 500倍液、チウラムフロアブル（チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル）500倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）1, 000倍液など）を混用することが望ましい。
- (4) 定期防除の散布間隔が長ならないように注意し、降雨量が多い場合は追加散布を検討する。追加散布薬剤は上記（3）の薬剤の他、オキシラン水和剤600倍液、ベルコートフロアブル1, 500倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）1, 000倍液などがある。



果そう基部



葉身



葉柄



収穫果被害

図1 ナシ黒星病の病斑